

芦屋室内合奏団  
ASHIYA CHAMBER ORCHESTRA

第44回定期演奏会  
The 44<sup>th</sup> Regular Concert



兵庫県立芸術文化センター 神戸女学院小ホール  
Recital Hall, Hyogo Performing Arts Center

平成 23 年 1 月 16 日 (日)  
Sunday, 16 January, 2011

開場 午後 1 時 30 分 開演 午後 2 時  
Opening at 1:30 p.m. Beginning at 2 p.m.

1965年、芦屋市浜町の橋本邸で発足した当団も、お蔭様で第44回目の定期演奏会を迎えました。

今回は、オーボエとヴァイオリンのソリストをお迎えし、2つの協奏曲を取り上げました。又、ヴァイオリンの森田先生にはソリストとしてだけではなく、他の曲目全般についても、細部にわたりトレーナーとしていろいろご指導頂きました。

永年に亘り、相変わらず当団を暖かく見守って下さいますご来場の皆様方に、厚くお礼申し上げます。

2011年1月 芦屋室内合奏団 団長 青柳 良  
 団員 一同

プログラム PROGRAM

S. バーバー 「弦楽のためのアダージョ」 作品11

S. Barber "Adagio for strings" Op.11

W. A. モーツァルト ディヴェルティメント 変ロ長調 KV 137

W. A. Mozart Divertimento in B♭ Major KV 137

I Andante II Allegro di molto III Allegro assai

J. S. バッハ オーボエとヴァイオリンのための協奏曲 二短調 BWV 1060

J. S. Bach Concerto for Oboe and Violin in d minor BWV1060

I Allegro II Adagio III Allegro

オーボエ独奏 平井 好子 Oboe Solo Yoshiko Hirai

ヴァイオリン独奏 森田 玲子 Violin Solo Reiko Morita

♪ 休憩 Intermision ♪

A. マルチェッロ オーボエ協奏曲 ハ短調

A. Marcello Concerto for Oboe in c minor

I Allegro moderato II Adagio III Allegro

オーボエ独奏 平井好子 Oboe Solo Yoshiko Hirai

A. ドヴォルザーク 弦楽四重奏曲 第12番 へ長調 作品96「アメリカ」  
 弦楽合奏用編曲

A. Dvořák String Quartet No. 12 in F Major Op.96 "America" Arranged for String Ensemble

I Allegro ma non troppo II Lento III Molto Vivace IV Vivace ma non troppo

指揮 酒井 睦雄 演奏 芦屋室内合奏団  
 Ashiya Chamber Orchestra Conducted by Mutsuo Sakai

■ S. バーバー 「弦楽のためのアダージョ」 作品 11

サミュエル・バーバー (1910-1981) は現代アメリカの作曲家。作風は保守的であるが、アメリカ人の間で最も広く愛されている作曲家の一人。この曲は 1936 年に作曲された弦楽四重奏曲口短調の第 2 楽章から弦楽合奏用に編曲されたもので、バーバーの作品では最も愛好されている。

曲は陰鬱な和音からはじまり、フーガのように各パートが交互に主題を演奏して次第に盛り上がっていき、最高潮で突然音が途絶えて静寂が支配し、また元の主題に戻って静かに終わる。

今回、明日の阪神淡路大震災 16 周年に際して、犠牲者に哀悼の意を表してこの曲を演奏する。

■ W. A. モーツァルト ディヴェルティメント 変ロ長調 KV 137

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト (1756-1791) は約 40 曲の交響曲以外に数十曲のディヴェルティメント、セレナードを残している。どちらも交響曲のように正式なものではなく、貴族や富豪の祝い事などの食事時にいわば BGM として演奏されたものであるが、優雅で珠玉のような作品が多い。この KV137 の曲は前後の KV136 と KV138 とともにほぼ同時に作曲され、編成が弦楽 4 部構成でメヌエットを除いた 3 楽章からなる共通点があり、いずれ劣らぬ逸品である。

曲はモーツァルトのディヴェルティメントとしてはめずらしく緩徐楽章からはじまり、第 2 楽章で本来の歯切れのよい生き生きとしたメロディを第 1、第 2 ヴァイオリンが演奏する。第 3 楽章は快活な 3 拍子の第 1 主題を第 1 ヴァイオリンが奏で、ヴァイオリンおよびヴィオラが担当する第 2 主題の優雅な旋律で曲は終わる。

■ J. S. バッハ オーボエとヴァイオリンのための協奏曲 二短調 BWV 1060

ヨハン・セバスチャン・バッハ (1685-1750) は、1 台又は複数台のヴァイオリンやオーボエのための協奏曲を、1 台又は複数台のチェンバロのための協奏曲に編曲しており、この曲も後に 2 台のハープシコードのための協奏曲第 1 番ハ短調に編曲されていて、この方が演奏される機会が多い。

第 1 楽章ではオーボエと独奏ヴァイオリンが互いに会話するように演奏する。第 2 楽章ではトゥッティのピッチカートの上にオーボエとヴァイオリンが優雅なメロディーを奏で不完全な休止のまま第 3 楽章の生き生きとした主題に引き継ぐ。

■ A. マルチェッロ オーボエ協奏曲 ハ短調

18 世紀前半のイタリア・ヴェネツィアでは、ヴィヴァルディ、アルビノーニ、そしてマルチェッロ兄弟によって器楽曲の作曲が全盛期にあった。マルチェッロ家は名門の貴族であり、兄のアレッサンドロ・マルチェッロ (1684-1747) の作品は少ないが、このオーボエ協奏曲は今日バロックの名曲として数えられている。この曲は後にバッハにより、クラヴィア曲二短調 BWV974 に編曲されている。

■ A. ドヴォルザーク 弦楽四重奏曲 第 12 番 ヘ長調 作品 96 「アメリカ」 弦楽合奏版

1892 年にアメリカに渡ったチェコの作曲家アントニン・ドヴォルザーク (1841-1904) は当地で有名な交響曲第 9 番「新世界より」の他に弦楽四重奏曲第 12 番ヘ長調を作曲した。後に「アメリカ」という表題がつけられ親しまれている曲だが、本日は弦楽合奏としてお聞きいただきたい。一昨年に当合奏団が演奏したシューベルトの「死と乙女」と同様に、弦楽四重奏曲として作曲された曲を弦楽合奏曲として演奏した場合、強弱のコントラストがはっきりでて迫力がある他、コントラバスがチェロのオクターブ低い音程を弾く事により音域にも広がりを感じられて違ったよさがある。

第 1 楽章はヴァイオリンのトレモロの上にヴィオラが第 1 主題を朗々と奏で第 1 ヴァイオリンが引き継ぐ。しばらく変奏があり、一段落したところで郷愁をそそるような長調の第 2 主題が現れる。第 2 楽章は第 2 ヴァイオリンとヴィオラの分散和音に乗って第 1 ヴァイオリンがこれまた懐かしい旋律を奏で、これをチェロが引き継いで交互に繰り返して最後はチェロの旋律で静かに締めくくる。第 3 楽章はスケルツォで冒頭いきなり第 2 ヴァイオリンとチェロが活発な主題を奏でる。主題を変奏した副主題が続く、中間部ではこの副主題を更に変奏してはじめに戻り、冒頭部で終わる。第 4 楽章は第 2 ヴァイオリンとヴィオラの軽快なリズムの伴奏の上に第 1 ヴァイオリンが飛び跳ねるような第 1 主題を奏でる。さらに第 2 ヴァイオリンとヴィオラと同じリズムの伴奏の上に第 1 ヴァイオリンが今度は打って変わって流れるような第 2 主題を演奏し、2 つの主題の変奏が交互に現れて次第に高まり最後はユニゾンとコーダで終わる。ドヴォルザークは無類の鉄道マニアで知られているが、この楽章には当時の SL を擬したと思われる伴奏が聴かれる。

## ■酒井睦雄 Mutsuo Sakai 指揮

桐朋学園高等学校音楽科を経て1971年桐朋学園大学卒業。指揮を斎藤秀雄、秋山和慶両氏に、クラリネットを北爪利世、二宮和子、F. フックス各氏に師事。1971年より相愛オーケストラ指揮者、1977年ザルツブルクにてO. スイトナー氏に師事。同年、東京にてS. チェリビダッケ氏のゼミナールに参加。2001年には芦屋室内合奏団を率いてドイツのバンベルクにてバンベルク交響楽団団員とともにニューイヤーコンサート、ドレスデンにてフラウエン教会落成記念コンサート等を行い好評を博す。2005年第19回京都芸術祭音楽部門 京都府知事賞受賞。現在、相愛大学教授として音楽専門家の育成にあたる傍ら、1974年より芦屋室内合奏団音楽監督、岐阜交響楽団常任指揮者、1990年より高知室内管弦楽団指揮者をつとめる等、アマチュア合奏団の発展にも尽力している。

## ■平井好子 Yoshiko Hirai オーボエ独奏

相愛高校音楽科を経て京都市立芸術大学音楽学部卒業。ドイツ国立デトモルト音楽大学卒業。故岩崎勇教授、ヘルムート・ヴァインシャーマン教授に師事。ドイツ滞在中(1980~1986)ドイツ・バッハゾリステン、フィルハーモニア・ダ・カメラ、テイボー・バルガー・カンマーオーケストラのメンバーとして多くの音楽祭、演奏旅行に参加する。また数多くの教会音楽、室内楽の演奏をヨーロッパ各地で行う。帰国後もドイツ・バッハゾリステン、スロバキア・フィルハーモニック・ゾリステン他多くのヨーロッパの著名な音楽家と数多く共演する。1986年12月、1988年6月、1998年10月リサイタル開催。1989年夏、大阪・京都ゲバントハウス合唱団とヨーロッパ演奏旅行の為、再度渡欧。1991年9月ドイツ・バッハゾリステン結成30周年記念日本公演全国ツアーメンバー、以後1993年、1998年、2000年ドイツ・バッハゾリステン結成40周年記念日本公演全国ツアーメンバー。2010年9月東京にてヴァインシャーマン教授の90歳を祝うスペシャルオーケストラメンバー。また大阪府能勢町にて合唱団の指揮、指導を行い 合唱とオーボエの演奏会を福祉施設などで定期的に開催し、音楽を通して社会貢献にも力を注いでいる。現在、相愛大学音楽学部、大阪府立夕陽丘高校音楽科非常勤講師。

## ■森田玲子 Reiko Morita ヴァイオリン独奏

相愛女子大学(現、相愛大学)卒業。同研究科修了。東儀祐二、鷺見三郎、海野義雄の各氏に師事。第26回学生音楽コンクール西日本大会第1位入賞。朝日推薦演奏会、日演連推薦演奏会等に出演。1982年、2000年リサイタルを開催、1983年渡欧。Dr.Rオルトナー、H.フィスター各氏の指導を受け、スイス、オーストリア各地のシュロスコンサートに出演。ソリストとして関西フィルハーモニー管弦楽団、大阪センチュリー交響楽団、エウフォニカ管弦楽団等と数多く共演。関西フィルハーモニー管弦楽団、大阪シンフォニカー、九州交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団等の客演首席奏者としても活躍。2000年アンサンブル・シュッツと共に倉敷音楽祭に出演、バロックから現代音楽までの幅広いレパートリーを演奏。あふれる音楽性、心地よいリズム感で客席を魅了、大好評を得る。リミック指導資格(リミック研究センター)を取得。リミックを取り入れた指導の研究を進めている。現在、相愛大学、相愛高等学校非常勤講師。大阪コレギウム・ムジクム、シンフォニア・コレギウムOSAKAコンサートミストレス。

## ■芦屋室内合奏団

音楽監督	: 酒井睦雄	団長	: 青柳良			
事務局	: 伊藤恵子	末松秀樹	福永千江子	会計	: 藤本恭子	
ヴァイオリン	: 青柳良	○勝部操	喜多智佐子	田島光子	富田良吉	
		◎鳥丸安雄	○福永千江子	藤本恭子	☆三村誠子	吉岡道子
ヴィオラ	: ○伊藤恵子	音村圭一郎	堀田純子	*川村信郎	*長塚久夫	
チェロ	: ○鳥丸直子	堀田一之	宮崎晴夫			
コントラバス	: 末松秀樹					
チェンバロ	: 小津久子					

◎:コンサートマスター ☆:アシスタントコンサートミストレス ○:パートリーダー \* :客演